



～もう一人の自分たち～

校長 熊本 寿美

ふるさと宇美を愛し、志をもって、たくましく未来を生きる生徒の育成

(文責：教頭 土器 修)

「花束～繋げよう みんなが主役のステージへ」 ～学習成果発表会の実施～

本校では、体育会や文化発表会等で生徒会チーム制による異年齢活動を仕組み、人間関係形成力の育成に取り組んでいます。本年度の文化発表会は、昨年度同様、学習成果発表会として10月19日(火)に実施しました。保護者、地域の皆さまには、三密回避の観点で参観を控えていただく措置にご理解、ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

第24代生徒会は「花束～繋げよう みんなが主役のステージへ」をスローガンに掲げ、学習成果発表会に向けた取組と準備が始まりました。このスローガンには、生徒会会員1人1人の「輝く笑顔の花」を1つに繋ぐことで、「輝く笑顔の花束」をつくり、南中史上最高の学習成果発表会にしたいという生徒会役員の思いが込められています。合唱コンクールをはじめとするステージ発表に向けた練習や展示発表に向けた準備が進められ、発表会当日を迎えることができました。この間、合唱練習では、リーダーを中心に各学級の課題を明らかにして取り組み方を話し合い、学級が1つになって改善に取り組む姿が見られました。また、本年度は、異年齢活動の一環として、3年生のリーダーを中心に全校生徒が、全校合唱「ひまわりの約束」に取り組みました。各チームの3年生のリーダーたちが練習を主体的に計画・運営しました。

1、2年生からは、頼もしい3年生のリーダーシップに感謝の気持ちとともに、次年度の自分たちの目標として取り組む決意の声が聞かれました。弁論や英語スピーチ、理科自由研究、読書サポーター活動、各学年総合的な学習の時間、吹奏楽の発表において、代表生徒は、聞き手を意識した創意工夫や内容の焦点化等に取り組み、聞き手を引きつけ、感動を生む発表に仕上げました。展示発表では、様々な表現の工夫がなされた力作ばかりが出展され、鑑賞時には学年を超えた称賛の声があがりました。

これらの取組を通して、生徒会スローガンに示されたように、生徒1人1人の主体性が発揮され、学級や学年の連帯、学年を超えたつながりを一層強めることができました。生徒のふり返りからは、仲間を大切にする気持ちや態度等も高まったこともわかりました。学習成果発表会の取組が南中生の心を耕す、新たな文化を創り出す機会となったと確信しています。学習成果発表会を終えた生徒のアンケート結果とふり返りの一部を紹介いたします。

<生徒アンケート結果> ※数値は4段階尺度法の平均値

| 質問項目 | 平均 |
|---|------|
| リーダーが中心になり生徒同士で声をかけ合って合唱練習を行うことができましたか。 | 3.56 |
| 学級曲の練習を計画的に進めることができましたか。 | 3.59 |
| 学級曲の練習に積極的に参加できましたか。 | 3.71 |
| 学習活動発表(英語スピーチ、弁論、自由研究、ビブリオバトル、総合発表)はどうでしたか。 | 3.87 |
| 多目的室での展示発表はどうでしたか。 | 3.73 |

<生徒ふり返り>

3年生

- 傾聴姿勢が前より良くなった。普段の授業にも傾聴を意識していきたい。
- 皆で一致団結して力を出すことの大切さを学びました。行事で生かしていきたい。
- 日々の積み重ねが何事も大切だと思ったので受験に向けて日々努力したい。
- 来年も、お互いの頑張り認め合い、高め合う学習成果発表会にしてください。

2年生

- 学級の団結が強まった。仲間と1つの目標に向けて頑張る良さを学びました。
- 誰かがしてくれるのを待つのではなく、自分から積極的に実行することができました。
- 人に何と言われても大きな声を出せました。自分らしくすることを意識したい。
- 3年生にチーム練習時にポイントを教えてもらったので、良い合唱にすることができました。3年生の思いと一緒に、来年は3年生を超えられるような合唱にしたい。

1年生

- パートリーダーとして指示を出し、スムーズに練習を進めることができました。
- 仲間と協力して自分の限界にチャレンジできたことが良かった。
- 学年で団結し集団行動する力が身に付いたと思います。
- 3年生は学級練習の一方で、準備や運営もしてすごいと思いました。



スローガン発表の様子



英語スピーチの様子



弁論発表の様子



展示発表の様子



合唱コンクールの様子



最優秀指揮者賞の
2年1組 伊藤寛菜さん



最優秀伴奏者賞の
3年1組 平田理玖さん

生きて働く力の育成に向けて ～3学年夢実現プログラム「出前講座」の実施～

3学年では、「夢実現プログラム」として、高等学校の先生を講師にお招きし、高校での授業を体験する出前講座を実施しています。3年生が、直接高等学校の授業を体験したり、高等学校の方針や特色を聞いたりすることを通して中学卒業後の進路選択について考える機会となっています。本年度は、県立高等学校による出前授業と、私立高等学校による学校紹介を10月21日(木)に実施いたしました。

進路選択を間近に控えた3年生は、真剣な眼差しで講師の先生の授業や説明に臨み、自らの将来の夢や進学先での目標をより明確にすることができました。講師の先生からも、本校3年生の主体的で、真剣な態度についてお誉めの言葉をいただいています。いよいよ3年生にとっては、進路選択に向けて進路説明会、三者面談等の取組が始まります。3年生が、この日の学びを日々の授業や生活、家庭学習につなげ、自らをさらに高め成長させることを期待しています。



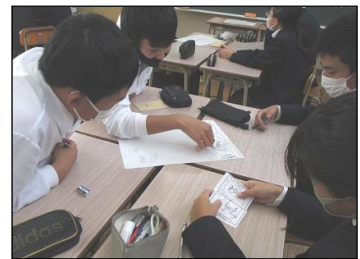
出前講座の様子

学校評価に係る検証改善の推進 ～異年齢GWTの実施～

10月22日(金)の5校時に異年齢GWT(グループ・ワーク・トレーニング)第2回を実施しました。学習成果発表会で強まった学級や学年、学年を超えた連帯感を、互いに認め、支え合う関係づくりにつなげる目的で、この時期に設定しました。

今回は、4月に実施した課題よりも難易度が高い課題に、全校生徒が1～3年生で構成されたグループに分かれて取り組みました。南中生は、普段意見交流をする機会がない他学年の生徒との対話に緊張しながらも、協力できた喜びを実感し、同じ目的を共有する大切さを学ぶことができました。

7月に、本校教員による学校評価(中間評価)を実施したところ、「磨き合う集団づくり」「教育環境の充実」に向けて、他者を認め合う言語環境づくりに重点的に取り組む必要があることが明らかになりました。今回のGWTの取組で、生徒からは「人と仲良くするには伝え方を工夫しないとイケない」「異なる意見も尊重しないとイケない」「偏見をもたずに良さを見つけることが大切」「優しい言葉かけが嬉しい」「誉めてくれる人がいて良かった」などの声があがり、他者を認め合う言語環境づくりに向けたヒントやポイントを多くの生徒がつかむことができていました。これらの成果を生徒会活動や掲示物作成と関連付け、言語環境づくりに努めてまいります。



異年齢GWTの様子

校内OJTの推進 ～糟屋区教科等指導員、町指導主事による教科指導力向上研修の実施～

本校では、教員の教科指導力の向上に係る取組の1つとして、糟屋区教科等指導員、町指導主事を指導者とする教科指導力向上研修を実施しています。この研修の特徴は、教員自らが教科指導に係る課題を明らかにし、授業実践を通して主体的に課題を解決していくところです。

10月に入って、この研修が始まりました。糟屋区教科等指導員には在籍校で行う授業を参観させていただき、本校での授業実践について直接指導助言を受ける形で、町指導主事には2回の本校での授業実践に指導助言を受ける形で研修を行っています。参加する本校教員の課題は、1時間の授業における発問や板書等の指導技術に関するものや、単元の学習課題や計画等の授業構想に関するものなど様々ですが、指導者の先生の丁寧で的確な指導により、自らの課題解決に向けた学びを深めているところです。教員の様々な課題に応じた研鑽機会を通して、教員の教科指導力を高め、学力の向上に資する授業改善につなげてまいります。



区教科等指導員による授業研修の様子

本校運動部選手の健闘を称えて ～令和3年度糟屋区中体連新人大会の終了報告～

10月9日(土)に始まった糟屋区中体連新人大会が、10月17日(日)に終了いたしました。各競技の会場では、本校選手たちが最後まであきらめない粘り強さを発揮し、熱戦が繰り広げられました。選手の皆さんの健闘を心より称えます。保護者の皆さまにおかれましては、感染症拡大防止のため、本年度も無観客での実施となりましたことにご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございました。外部指導者の皆さまには、日頃から子どもたちの技術向上、体力向上にご尽力、ご支援いただいていることにお礼申し上げます。お陰をもちまして、大きな怪我もなく、無事に大会を終了することができました。

本大会においては、熱戦の末、女子バスケットボール部が優勝、男子卓球部が3位に輝き、11月20日(土)に開催される筑前地区大会への出場を決めています。県大会出場を目指した選手の皆さんのさらなる奮闘と活躍を期待しています。



女子バスケットボール部



男子卓球部